

公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター

令和 2 年度事業報告

1 公益目的事業の報告

(1) 防災安全学問研究の推進・創造

当機構の設立母体である長岡の 3 大学 1 高専 1 研究センターの枠組みに、令和 2 年 2 月に連携協定を締結した新潟大学災害・復興科学研究所等を加え、各機関より学術的、専門的な見地からの協力をいただきながら、当機構の公益事業及び収益事業等を効率的かつ効果的に遂行し、防災安全学問研究を推進した。令和 2 年度の主な活動は、「復興を考える若手研究会」の開催と「新潟防災シリーズフォーラム」である。

①復興を考える若手研究会

復興を考える若手研究会は、災害復興に関する研究を行う任意グループである。長岡技術科学大学、宮城大学、兵庫県立大学、明治大学の災害復興に関する研究者と当機構で構成しており、定期的に議論を重ねている。令和 2 年度は、コロナ禍における災害復興等について、オンラインで研究会を開催し、議論及び研究を行った（5 月 1 日、6 月 5 日、7 月 6 日、8 月 4 日、9 月 7 日、10 月 5 日、12 月 14 日、2 月 25 日の計 8 回開催）。

②新潟防災シリーズフォーラム

新潟防災シリーズフォーラムは、防災研究に取り組む長岡技術科学大学と防災産業クラスターの形成に取り組む新潟県の協働により、地域住民の防災活動に対する主体性向上の新たな概念である「防災ワクチン™」を主題したフォーラム（9 月 19 日）と、防災関連産業の集積やネットワーク強化による防災産業クラスター形成に向けた機運を醸成する「キックオフセミナー」（9 月 20 日）を開催したものである。当機構は共催という立場でフォーラムの企画・運営のコーディネート及びサポートを行った。

防災ワクチンフォーラムでは、「災害に強い地域社会」とはどのようなもので、その強さはいかにして育まれるのかをテーマに、災害に強い地域づくりに取り組む実践者と支援者を全国から招き、地域防災力の獲得過程を議論した。なお、防災ワクチンとは本フォーラムで初めて提示された新しい概念であり、災害そのものを体験する前に、弱毒化した災害体験（経験、訓練、知識等）により、地域の主体性を高め免疫力を向上する方法である。

キックオフセミナーは、新潟県の防災産業クラスター形成事業の一環として、地域防災力センターが企画・運営した（P10 参照）



(2) 防災・復興人材育成と人的ネットワークの形成

①中越市民防災安全大学

15 期目となる今期は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、開催日程を例年より 3 か月延期し、11 月 21 日からの 5 日間日程で 20 講座を実施した。講座内容も従来の内容に加えて広い視点から構成し、地元長岡の企業による災害対応の考え方、地震・河川の防災、洪水時の救助に活用できる着衣泳、東日本大震災の事例を参考とした避難所運営における住民コミュニケーションのあり方など、長岡及び新潟県内で活躍されている方々を中心に多彩なプログラムを提供した。

受講者は、長岡市内在住の市民を中心に 10 代から 70 代までの 47 名であり、うち 46 名が修了し、中越市民防災安全士となった（前年度以前の再履修者 2 名を含む）。最終日の修了式後の防災士資格取得試験には 40 名が受験し、33 名が防災士資格を取得した。



きおくみらい会場（1 日目）



災害食実演（3 日目）



普通救命講習（5 日目）

令和2年度・第15期「中越市民防災安全大学」カリキュラム					
日程・会場		テーマ・講師	講座	内 容（概要）	
第1日 11.21 (木)	9:30-10:30	① 中越市民防災安全大学開校式 長岡市防災安全センター			
	10:40-12:10	② 避難時の身のこなし 中越市民防災安全センター	1	開校式（中越市民防災安全大学） 中越市民防災安全大学への挨拶	
	13:10-14:40	③ 避難時の身のこなし 中越市民防災安全センター	2	防災安全センターの役割と活動の実際	
	14:50-16:20	④ 防災コミュニケーション 中越市民防災安全センター	3	中越市民防災安全センターの役割と活動の実際	
第2日 11.22 (金)	9:00-10:30	① 企業と防災、災害時の事業継続 長岡市防災安全センター	4	企業と防災安全センターの役割と活動の実際	
	10:40-12:10	② 地域一体で学校を支える長岡市の防災教育体制 長岡市防災安全センター	5	防災安全センターの役割と活動の実際	
	13:10-14:40	③ 河川洪水から自分の命を守る 長岡市防災安全センター	6	防災安全センターの役割と活動の実際	
	14:50-16:20	④ 災害現場と金銭的対応 長岡市防災安全センター	7	防災安全センターの役割と活動の実際	
第3日 11.28 (土)	9:00-10:30	① おおや直田ミュージアムを巡る 長岡市防災安全センター	8	防災安全センターの役割と活動の実際	
	10:40-12:10	② やまこし復興交流館を巡る 復興見学 長岡市防災安全センター	9	防災安全センターの役割と活動の実際	
	13:00-14:40	③ 災害食体験（昼食） 長岡市防災安全センター	10	防災安全センターの役割と活動の実際	
	14:50-16:20	④ 山古志地域視察 長岡市防災安全センター	11	防災安全センターの役割と活動の実際	
第4日 12.5 (土)	9:00-10:30	① 災害ボランティアへの参画と多様な役割 長岡市防災安全センター	12	防災安全センターの役割と活動の実際	
	10:40-12:10	② 水害・土砂災害の復旧から学ぶ補修と防災対策 長岡市防災安全センター	13	防災安全センターの役割と活動の実際	
	13:10-14:40	③ 防災情報を活用した水害へのそなえ 長岡市防災安全センター	14	防災安全センターの役割と活動の実際	
	14:50-16:20	④ 避難所での避難生活とは 長岡市防災安全センター	15	防災安全センターの役割と活動の実際	
第5日 12.6 (日)	9:00-10:30	① 避難所での避難生活とは 長岡市防災安全センター	16	防災安全センターの役割と活動の実際	
	10:40-12:10	② 長岡市の防災対策と災害対応 長岡市防災安全センター	17	防災安全センターの役割と活動の実際	
	13:10-14:40	③ 中越地域から16年・地域のごりから 長岡市防災安全センター	18	防災安全センターの役割と活動の実際	
	15:00-16:20	④ 講話・卒業式 長岡市防災安全センター	19	防災安全センターの役割と活動の実際	
	16:00-17:00	⑤ 防災士試験（申込希望者のみ） 長岡市防災安全センター	20	防災安全センターの役割と活動の実際	

※本カリキュラムは予定であり、断りなく内容が変更される場合があります。
※災害の発生、感染症の影響等で講座が予定通り実施できない場合はその都度ホームページ等でお知らせします。

②新潟県立新潟県央工業高校（都市防災コース）防災研修講座

新潟県立新潟県央工業高校において、地域の次世代を担う学生への防災意識の醸成と防災士資格取得を目的に、新潟県建設業協会三条支部の協力のもと、都市防災コースの生徒を対象とした防災研修講座（防災士養成）を初めて企画・開催した。

研修講座は、延べ9回の学校内での講座と12月に実施した当機構主催の防災士養成講座（新潟会場）への参加により構成されており、当機構職員のほか、新潟地方気象台や三条市防災担当部局、三条市内の防災関連企業、長岡技術科学大学など様々な分野の方々が講師を務めた。

令和2年度は、都市防災コースの生徒16名が講義と課題に取り組み、防災士資格試験に挑戦して、県央工業高校として初の高校生防災士が誕生した。

当機構が日本防災士機構の認定機関であるからこそその地域貢献活動であり、県央工業高校からも深く感謝されていることから、今後も継続していく予定である。



③被災者・被災地支援

「佐賀県武雄市令和元年豪雨災害復興支援」

佐賀県武雄市では、令和元年8月に発生した豪雨災害の復興を受け、被災者に寄り添った支援していくため、武雄市民が中心となって民間のボランティア団体「おもやいボランティアセンター」を立ち上げており、当機構ではこのセンターの活動を継続的にサポートしている。

令和2年度は、おもやいボランティアセンターのミーティングに参加し（5月20日、6月16日、7月18日）、中越地震の経験を踏まえたアドバイスやこれから災害復興に向けた意見交換等を行った。



「大分県日田市令和2年7月豪雨災害復興支援」

大分県日田市は、令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた。そこで、震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）が開催した日田市の水害対応に関するオンラインの住民勉強会に出席し（7月19日、8月8日）、住民の質問に答えるかたちで災害復興や地域づくりに関するアドバイスを行った。

（３）防災安全情報・技術振興

①震災メモリアル施設運営支援事業（きおくみらい・妙見メモリアルパーク）

きおくみらいでは、新型コロナウイルス感染症の拡大抑止のため、長岡市の要請を受けて、前年度３月に引き続き、４月から５月７日までの期間を臨時休館としたが、年間来館者数は12,485人となり前年比99.9%だった。新型コロナウイルスの影響で一般団体の見学はほとんど申込みがなかったが、市内を中心に小中学生の授業利用（バス補助事業）による見学申込みを31校受け入れた。こども防災未来会議の開催やカエルキャラバンの長岡会場としての活動など、防災学習の需要、利用が大幅に増加した。コロナ禍により中止となった修学旅行等への代替需要として、きおくみらいの見学を希望する県内小中学校の来訪にも対応した（佐渡市、村上市、胎内市ほか）。

妙見メモリアルパークでは、例年通り８月・９月に除草作業を行ったほか、安全士会をはじめとするボランティアの協力もあり、寄贈された花きを移植し、花壇整備などを行った。メモリアルデーとなる１０月２３日には献花所を設定し、追悼の場とした。

②青少年の防災教育支援事業（メモリアル施設見学バス代補助）

長岡市メモリアル基金事業として、震災メモリアル施設見学にかかる交通費を補助する防災学習プログラムを実施した。令和２年度は翌年度以降の本格運用に向けたトライアル期間と位置付け、見学経験のある長岡市内の小中学校を中心に、親子防災活動等に取り組んでいる地域コミュニティセンターにも声を掛け（延べ30団体以上）、ヒアリングを行い、合計で21団体から活用いただいた。

利用者からは概ね良好であり、最大の懸案となる交通費（バス代）の補助が得られる点と、学習プログラムを課題、進度に合わせてコーディネートできる点を評価していただいた。この実績を参考に令和３年度以降も本事業を継続していく。



③青少年の防災教育支援事業（こども防災未来会議@2020 及び防災かべ新聞の展示会）

前年と同様、NPO 法人ふるさと未来創造堂との連携のもと、新潟県内の小中学校等を対象に防災かべ新聞コンクールを開催し、104点にのぼる作品の応募があった。12月12日に開催した「こども防災未来会議」では、コロナ禍の厳しい状況下での開催となり、きおくみらいの会場とオンラインを組み合わせで行った。



④青少年の防災教育支援事業（「イザ！カエルキャラバンながおか」の開催）

NPO 法人ふるさと未来創造堂との連携のもと、体験型の防災教育イベント「イザ！カエルキャラバンながおか」をきおくみらい及びまちなかキャンパス長岡を会場に開催した（3月7日）。子育て世帯を対象とし、震災時に必要な「技」や「知恵」をゲーム感覚で楽しみながら身に付ける内容であり、当日は見附市の葛巻小学校も学校ボランティアとして運営に協力参加していただき、市内の親子 25 組 50 名が参加した。

実施したプログラムは、「なまずの学校」「BOSAI 図工室：カエルフェイスシールド作り」「BOSAI 図工室：紙食器作り」「お家の防災グッズなあに？クイズ」「防災まちがいさがしけんはっけん！」「シヤッフルクイズ」「毛布担架タイムトライアル」である。



⑤中越沖地震メモリアル運営事業（まちから）

中越沖地震メモリアルまちからの運営を行った。令和 2 年度の年間来館者は 13,841 名（前年比 47.1%）であった。市民活動センターとの併設で、（主に市民向けの）イベントなどの協働開催により柏崎市内での知名度は定着したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、来館者数が減少した。

防災教育推進事業では、地域一体となった「柏崎らしい防災教育」を推進していくため、5 地区で、地域（コミュニティ振興協議会、町内会及び自主防災組織等）と協働で実施する防災教育をコーディネートした。柏崎らしい防災教育に取り組むモデル地区を増やしていくため、これまでの事例及び成果について、引き続きわかりやすく多くの学校や教職員に提示していく。

一方、防災教育の入り口として、中越沖地震メモリアルの地下映像及びアーカイブ資料等を活用した防災教育プログラムである「まちからマモルプログラム」を 26 校（モデル地区を含む）で 61 件実施した。前年度の 13 校（モデル地区を含む）26 件に対し、令和 2 年度は校数・件数ともに大幅に上回ったが、目標の 30 校達成には至らなかった。

震災の経験と教訓を伝承していくための語り部からの事例紹介等は 9 回実施した。

アーカイブ事業では、中越沖地震や東日本大震災等に関する情報を収集・蓄積し、館内の展示物等に反映した。また、その情報を活かした視察受入・研修・講師派遣（19 回）を実施した。

柏崎防災力向上ネットワーク事業では、市内防災関係組織との連携を推進するため、令和 2 年度も「柏崎防災力向上ネットワーク」会議を通じて、6 団体の協働の場づくりを行った。各組織が行っている事業やその中での課題などを共有し、組織同士で補い合いながら解決を目指すプロジェクトを令和元年度に 3 つ立ち上げており、令和 2 年度は担当者ごとに各プロジェクトの下準備を進めた。



モデル小学校での住民との意見交換



まちからを活用した防災学習

2 収益事業等の報告

①地域防災まちづくりフォローアップ事業【新潟県委託】

本事業は、県内市町村が抱える自主防災組織活動等に関する課題の解決や事業のフォローアップ等を行うことにより、地域防災力の向上を図ることを目的に実施したものである。

アドバイザー派遣事業としては、加茂市、津南町、田上町の3市町の取組をサポートした。また、テーマ別意見交換会として、市町村職員を対象に「新型コロナウイルス感染症を踏まえた災害時の住民避難」（6月3日開催）、「新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所運営」（6月4日開催）をテーマとした研修会を企画・運営した。



②にいがた防災シニアリーダー育成事業【新潟県委託】

本事業は、防災情報を正しく理解し、説明できる人材の育成を図ることを目的に、「にいがた防災シニアリーダー養成講座」を企画・運営したものである。

養成講座は12月5日、12月19日の2日間開催し、「講師としての心構えや姿勢、スキル」「水害時の避難行動を教えるための専門知識」などを学んだ。16名の受講者全員が無事修了し、にいがた防災シニアリーダーとして認定された。また、次年度以降の候補者の獲得及び防災リーダーの役割を担う団体の活動活性化と自立促進のため、防災リーダー交流会を3月19日にオンラインにて開催した。各地の防災リーダー団体（計8団体）が参加し、活動紹介や情報交換を行った。



③企業・学校連携 防災啓発セミナー【新潟県委託】

本事業は、若い世代や学生の防災意識の向上を図るため、県内の企業・学校と連携した「防災啓発セミナー」を実施したものである。令和2年度は、新潟県行政書士会、JAPANサッカーカレッジ、新潟薬科大学、新潟法律大学校、日本自然環境専門学校、佐渡保育専門学校、新潟県生活協同組合連合会、新潟公務員法律専門学校にて、個人を対象とした防災に関する内容で、地域における防災活動の紹介や災害対応の実例等を踏まえた講義を行った。

④防災産業クラスター形成事業【新潟県委託】

本事業は、新潟県内企業、大学、防災関連機関等による防災産業のクラスターを形成することを目的として実施したものである。令和2年度は、防災産業クラスターのきっかけづくりを進めるためにセミナーやワークショップ等を実施した。

キックオフセミナー（9月20日）では、県内で実施されている既存分野を超えた防災産業の取組について、事例発表、パネルディスカッション、意見交換を行い、本事業の理解促進と情報発信を図った。また、参加企業間で新たな防災産業クラスターの構築の可能性について議論を行った。

セミナー並びにワークショップ（3月9日）では、キックオフセミナー以降の防災産業クラスターの取組について進捗報告を行うとともに、首都直下地震を想定し、新潟県内の企業が連携することで、支援活動や防災の取組におけるビジネス展開の可能性をグループワーク形式で検討した。

Snow CoIN（スノーコイン）活動報告会（3月26日）では、防災産業クラスター事業の一環として、令和2年度冬期の道路管理業務効率化プロジェクト、路面温度予測・凍結予測システム、節水型降雪センサー、屋根雪荷重測定などの実証実験の結果等を報告した。



⑤災害支援物資調達システム スマートサプライ EC【新潟県補助事業】

本事業は、電話やFAXにより行われている災害時の市町村等の物資調達・管理を、DX（デジタルトランスフォーメーション）で効率化することを目的として、災害支援物資調達システム「スマートサプライ EC」の開発を行うものである。なお、本事業は、NPO 法人コメリ災害対策センター、一般社団法人 Smart Supply Vision、当機構の三者でコンソーシアムを組み、新潟県の「アフターコロナを見据えたイノベーション創出支援事業」からの補助を受けて実施している（事業実施期間は令和4年3月末まで）。

令和2年度は、一般社団法人 Smart Supply Vision を中心にシステムの開発を進めるとともに、被災経験のある自治体へのヒアリング調査や、支援物資の供給元となり得る新潟県内の企業のリサーチ及びコンタクトを行った。



スマートサプライ EC による業務効率化のイメージ

⑥地域防災力強化支援事業【長岡市委託】

本事業は、自主防災会等の個別課題に応じた水害に対する共助体制の構築・強化を図るとともに、住民主体の実効性ある防災活動を推進することを目的に実施したものである。長岡市内の6つの地域を対象に、当機構職員がアドバイザーとなって、水害時の避難行動や避難体制、避難所開設・運営に関する指導・助言等を行った。

組織・地域名	活動回数	主な内容
宮内避難所運営検討会 [28 町内会]	8	避難所開設・運営訓練
千手コミュニティセンター [10 町内会]	7	千手地区の水害体制整備、研修会
琴平 3 丁目町内会（自主防災会）	11	水害時（栖吉川）の避難行動・訓練
下々条町内会	2	豪雨災害時の対応を考える講義・WS
谷内 1 丁目町内会	2	水害時避難に関するセミナー
大島新町 4-1 町内会	2	水害時避難に関する講演・意見交換会

⑦長岡市水防避難訓練 避難場所開設訓練業務【長岡市委託】

本業務は、令和2年度長岡市水防避難訓練（8月23日）において、避難場所開設訓練を企画・準備・実施（進行）したものである。訓練に先立ち、中越市民防災安全士会と協力し、実施手順と要点をまとめた配布資料「避難場所開設訓練ガイド」を作成するとともに、事前に現場確認を行った。訓練当日は、地域の方々を対象に、避難施設レイアウト、訓練の導線、受付の位置、備蓄倉庫、備蓄品、実施手順の確認等を行った。



⑧長岡市総合防災訓練 避難場所開設・運営訓練業務【長岡市委託】

本業務は、令和2年度長岡市総合防災訓練（10月25日）において、避難場所開設訓練を企画・準備・実施（進行）したものである。訓練を円滑かつ効果的に進行するため、実施手順と要点をまとめた「避難場所開設・運営訓練基礎編配布資料」を作成し、この資料に基づいて、地区の役員の方々、避難所担当職員を対象に、避難所開設の手順の説明、パーティション及びダンボールベッドの組立、受付設置等を行った。



⑨在宅避難啓発資料作成業務【長岡市委託】

本業務は、「長岡方式の避難行動」で示す避難行動の一つである在宅避難の方法論をわかりやすくまとめ市民に周知することで、災害時の適切な避難等の行動の実践力を高めることを目的に、「水害時 在宅避難の手引き」を作成したものである。なお、本手引きは、ながおか防災ホームページにて、公開・提供されている。

<https://www.bousai.city.nagaoka.niigata.jp/preparing/evacuation-at-home.html>



⑩避難所運営体制連絡会（検討会）企画運営委託業務【新潟市委託】

本業務は、新潟市が目指す避難所業務の全体方針のもと、三者が顔を合わせる検討会を開催し、平時からの協力体制構築を図るとともに、各避難所現地においてより実践的な検討を行うことを目的に実施したものである。避難所運営においても新型コロナウイルス感染対策の徹底が求められることから、各区において、以下のような日程及び内容で「避難所運営体制連絡会（講習会）」を開催した。

区	開催日	会期	テーマ
北区	8/7	1日3回	新型コロナウイルス対策
東区	9/2	1日3回	新型コロナウイルス対策
中央区	9/9	1日3回	新型コロナウイルス対策
江南区	9/30、10/1、10/2	1日2回×3日	運営委員会／新型コロナウイルス対策
秋葉区	9/15	1日3回	運営委員会
南区	8/27	1日1回	新型コロナウイルス対策
西区	7/30	1日3回	新型コロナウイルス対策
西蒲区	8/21	1日2回	運営委員会／新型コロナウイルス対策



⑪地区防災計画策定に向けた地域向けワークショップ企画運営委託業務【新潟市委託】

本業務は、講習会及びワークショップを通じて、地区居住者等が地域の特性や災害リスク、とるべき避難行動等について学び、災害時に的確な判断・行動ができるよう促すとともに、地区としての防災対策のあり方を検討し、地区防災計画の策定を支援することにより、地域が主体となった実効的な地域防災体制づくりを推進することを目的に実施したものである。

具体的には、中央区及び北区において、町内会・自主防災会の会長・役員、コミュニティ協議会のスタッフなどを対象に、地震及び水害等に係る基本的な知識を提供する講習会の講師を務めた（合計8回、各回90分の講義）。また、モデル地区を選定し（中央区堀之内南地区、北区松浜地区）、地区防災計画の策定に向けたワークショップ（WS）を企画・進行之、各モデル地区における地区防災計画の基本フレームを設計した。



⑫わが家の防災力向上事業【新潟市東区委託】

本事業は、災害から自分や家族の命を守り、地域の防災力の向上及び防災活動の持続性を高めていくことを目的として、住民満足度の高い「防災出前講座」を実施したものである。

防災出前講座は、新潟市東区内の自主防災組織等の構成員が対象であり、開催地域の要望に応じて「地震編」「水害編」「避難所運営編」の3つのメニューを用意し、当機構職員が講師を務め、合計10回開催した。



⑬避難所運営ワークショップ事業【新潟市東区委託】

本事業は、災害時の円滑な避難所運営の確立を目指すことを目的として、避難所運営のマニュアル整備が完了している避難所等を対象とした避難所運営にかかるシミュレーション（屋内による模擬訓練）の企画・設計・準備を行ったものである。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、避難所運営シミュレーション及びフォローアップは中止となり、次年度に再度実施する。



⑭地域の避難マップ作成ワークショップ業務【新潟市西区委託】

本業務は、新潟市西区坂井輪連合自主防災会地域を対象に、災害から自身や家族を守る術を知り、地域防災力の強化を図ることを目的として、地震や洪水が発生した際の避難経路等を示した避難マップを作成するワークショップを開催したものである（10月24日・25日、各日2回ずつ）。



⑮防災士フォローアップ【田上町委託】

本事業は、豪雨災害時の「逃げ遅れゼロ」を実現するため、防災士及び地区役員を対象に研修会を実施したものである（11月14日、2月28日）。新型コロナウイルス感染症の影響により、住民においては分散避難が推奨されるなど、避難のあり方にも変化が求められている状況を踏まえ、田上町内の各地区において、避難行動や情報伝達・安否確認を再確認するような研修内容とした。

⑩防災士フォローアップ【魚沼市委託】

本事業は、豪雨災害時の「逃げ遅れゼロ」を実現するため、防災士を対象に研修会を実施したものである（2月28日）。防災士が日頃から地域において災害時のリスクや正しい避難方法などを啓発できるよう、ハザードマップの見方や水害時の避難情報・避難行動を学ぶ研修内容とした。

⑰ 備蓄品トータルサービス用「備蓄品リスト」作成【東京電力ホールディングス】

本業務は、東京電力が顧客に対して、災害時に本当に必要となる備蓄品の提案を行うにあたり、過去の被災経験、災害支援経験・知見、災害支援活動で聞いた被災者の要望等を踏まえた「備蓄品リスト」を検討したものである。長岡市医師会、民間企業、高齢者福祉施設、自治体（新潟県、新潟市、長岡市）にヒアリングを行い、避難所、企業、福祉施設における備蓄品リストを作成した。

帰宅困難者用備蓄品セット (1セット)

※肩掛けバック（目立つ・浮く・光る）の中に入れておく

[illegible]

車内用備蓄品セット (1セット)

※大きさは特にこだわらないが、がかさばらないもの

※ガソリンは十分入っている想定

[illegible]

⑩防災士養成講座【自主事業】

当機構は、これまで防災士の受験資格が付与される中越市民防災安全大学や県内自治体が独自で実施する防災士養成講座の開催支援などを行ってきたが、平成30年度は新潟県の協力を得ながら初めて自主事業として防災士養成講座を開催した。令和元年度も引き続き防災士養成講座を開催し、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を施した上で同様に開催した。

県内各地から48名の参加申込があった。2日目に実施した防災士資格取得試験には、新潟県中央工業高校の生徒16名が合流したほか、過去の受講生の再試験の受け入れなども行い、最終的に74名が受験し、53名が新たに防災士となった。

<令和2年度防災士養成講座 開催概要>

- ◆開講日時 令和2年12月12日（土） 9:00～18:00
令和2年12月13日（日） 9:00～18:00（資格試験：16:50～17:50）
- ◆会 場 新潟ユニゾンプラザ4F大会議室
- ◆参加者 74名（申込48名、新潟県中央工業高校生徒16名、再試験者10名）
※高校生以外の主な内訳は新潟市37名、魚沼市8名、妙高市4名、村上市2名
- ◆受講料 60,000円（教本代、受験料、登録料含む） 学生割引 36,000円
- ◆講座内容 以下のとおり

（第1日目）

時間	カリキュラム	講座内容	講師
9:20-10:20	防災士に期待される活動と役割	地域で防災士に期待される役割や防災士の活動を知り、本養成講座の意義について理解を深める。	中越防災安全推進機構 諸橋和行
10:30-11:30	気候変動と自然災害	地球環境の変化に伴って近年多発する豪雨や豪雪等の気象災害、自然災害に関する理解を深める。	新潟大学危機管理室 教授 田村圭子氏
11:40-12:40	危機管理と災害対応	自然災害に留まらない危機の多様性を学び、危機管理の内容や課題について学ぶ。	新潟大学危機管理室 教授 田村圭子氏
13:40-14:40	行政による災害対策	災害対策基本の概要、行政の位置づけと災害時の役割を学ぶ。	新潟医療福祉大学 松岡輝彦氏
14:50-15:50	各種自然災害の発生メカニズム	各種自然災害（地震・土砂災害・風水害・津波）の発生メカニズムとその対策について学ぶ。	新潟大学災害・復興科学研究所 ト部厚志氏
16:00-17:00	自然災害による被害と教訓	近年発生した主な自然災害とその対策について学ぶ。	新潟大学災害・復興科学研究所 ト部厚志氏

（第2日目）

時間	カリキュラム	講座内容	講師
9:10-10:10	避難行動と地域防災	災害時における避難のタイミングや避難の仕方などについて、過去の事例などを通して学ぶ。	防災科学技術研究所 上米良秀行氏
10:20-11:20	災害ボランティア活動	災害時のボランティアセンターの仕組みを学び災害時の支援活動について考える。	中越防災安全推進機構 河内 毅
11:30-12:30	地域で行う防災訓練	各家庭での「自助」に加え、「共助」について効果的な防災訓練の在り方を考える。	中越防災安全推進機構 河内 毅
13:20-14:20	自主防災活動と地区防災計画	自主防災組織で行われている実践活動を先進的な自主防災活動の実態から学ぶ。	中越市民防災安全士会 岸 和義氏
14:30-15:30	復興と被災者支援	災害時に起こるさまざまな出来事をゲーム形式でわかりやすく体験しながら対策について考える。	長岡造形大学 福本 塁氏
15:40-16:40	地震・津波への備え	日ごろからできるそなえについて、参加者それぞれの意見を聞きながら備えについて学ぶ。	長岡造形大学 福本 塁氏
17:00-18:00	防災士資格取得試験		日本防災士機構